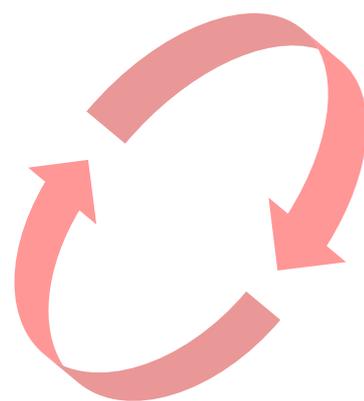


考え合い表現し合う 社会科の指導

第 6 学年



目次

はじめに ……………	1
武士の館の資料をもとに、気付きを共有しながら学習問題をつくる活動 ……………	2
家康による上水道整備事業の意図について、考え合い意見文に表す活動 ……………	6
単元を貫く問題意識の形成を図る、「条約改正」導入部の活動 ……………	10
鉄道敷設の意味について、異なる立場から考え合う活動 ……………	14
価値の更新を意図した、公共交通機関の意味をめぐる意見交換の活動 ……………	20
歴史学習と関連付けて、日本のODAの意味について考えを深める活動 ……………	24

はじめに

先生方から「社会科は難しい」「社会科の授業をどのように進めたらよいかわからない」という声を聞くことがしばしばあります。そのような声に応えるべく、「社会科の授業を問題解決的な学習で進めるにはどうしたらよいか」についてお示ししたいと考え、この冊子を企画しました。

「つかむ・調べる・まとめる・深める」という問題解決的な学習の過程において、「児童相互が考え合い表現し合う学習活動」を効果的に組み入れた指導の実践例を紹介することで、社会科の授業イメージを確かにもっていただければと思います。

まず、社会科の授業および学習の拠り所になるものは、全国どこの学校においてもまた全児童においても共通の教材である「教科書」です。教科書には、学習指導要領に示されている目標や学習内容に即した社会的事象・事実が具体化されています。そして、問題解決的な学習が展開しやすいように構成されています。この教科書に記載されている社会的事象・事実（本文・資料）を「読みとること」・「見とること」が大切です。そして「読んでわかったこと・見てわかったこと」（点としての事実の認識）から「読んでわかったことから考えたこと・見てわかったことから考えたこと」（線としての関係の認識）の考えの交流へと進めます。「考え合い表現し合う活動」を通して学びを深めることで、社会的事象の意味をとらえること（面としての意味の認識）につながります。そこに社会科学学習の楽しさが生まれるのです。

「考え合い表現し合う活動」では、資料を比較したり読み取る活動から生まれる個々の問いをまとめて学習問題を設定する「つかむ」段階、資料から読み取った事実の解釈をしたり事実相互の関連づけをしたりする「調べる」段階、調べたことや考えたことを分析・整理しながら追究の帰結を確かめる「まとめる」段階、これまでの学習でわかったことや考えたことをさらに深めて新聞や意見文等に表す「深める」段階のそのいずれの過程においても、児童一人一人が生活経験、既習経験および教科書等の根拠をもって表現する考えに、教師はしっかりと価値付けし、評価することが大切です。

そして、児童個々が考えを表現し全体で交流し合うことによって社会認識の深まりを共有する「社会科授業」の、「社会科学習」の楽しさを実感させたいと思います。

この企画では、上述のような留意点をふまえつつ、教科書と、また、必要に応じて「プラス・ワン」の教材を活用しながら考え合い表現し合う活動を充実させるにはどうすればよいかを考え、提案しています。日々の授業の参考にさせていただければ幸いです。

考え合い表現し合う社会科の指導（第6学年）編集委員会